



## 「やってはいけないこと。いってはいけないこと。」

(相手の人の身になって「思いやりのものさし」を…。)

「ゴールデンウィークが終わりました。今週から気持ちを切り替え落ち着いて生活をしましょう。これから朝の挨拶をします。(6年生)

『おはようございます。』 (おはようございまあす。)

桃五の皆さん609人の元気な挨拶で、気持ちのいいさわやかな月曜日の朝がスタートしました。

今日は、「やってはいけないこと、言ってはいけないこと。一思いやりのものさし」という話をします。

毎年5月頃になると、皆さんの言葉遣いで気になることがあるのでこの話をします。

ずいぶん前に見かけたことですが、みんなに気持ちの優しい子になってほしくて、毎年今頃になると、このお話をしています。

先生の家近くの、緑あふれる日曜日の朝の公園。鳥の声もあたりに響いてとてもさわやかな、気持ちのいい朝です。

足の不自由な男の子が、お母さんといっしょに朝の気持ちのいい道を歩いていました。足の病気でしょうか、うまく歩けない様子で、ゆっくりゆっくり、ちょっと傾くようにして歩いていきます。あしにはころんでも足をけがしたりしないように、そしてうまく自分で歩くことができるように、金属でできた「装具」をつけています。

転ばないように、怪我しないようにと、お母さんが寄り添ってついていきます。男の子はガチャガチャという音をさせながら、ベビーカーにつかまり、ゆっくりゆっくり押しながら、それでもとっとうれしそうにお母さんの顔を見ながら、ガチャガチャと、でもやっぱり倒れそうになりながらゆっくりゆっくり歩いていきます。

そこへ、ちょうどこの足の不自由な男の子の反対側から、やっぱりお母さんと一緒に小さな男の子が、歩いてきました。幼稚園の年中さんくらいでしょうか。チョコチョコ走り回って元気です。何か楽しそうにおしゃべりしながら、お母さんの後ろに回ったり前に回ったりしながらとっても楽しそうです。

そして、道の反対側を歩いている足の不自由な男の子に気づきました。

じいっと見つめてから、明るい声でこんなことを言ったのです。

「ねえねえお母さん、あのおにいちゃん歩き方がおかしいね。怪獣みたいだね、ガチャガチャいってるよ。…」

すると、お母さんは「しいいっ。あのおばさんがこわい顔してこっちをみてるから、そんなこというのやめなさい。」といいながら急いで遠ざかっていきました。

足の悪い子にはこの声は聞こえなかったようです。でも、この子のお母さんは、とてもとても、悲しい顔をして男の子の手をぎゅうっと握って、そしてしばらくの間赤い目をしながら抱きしめていました。

幼稚園の子は何気なく、悪気もなく、そして、小さいからよくわからずに気になっていたのでしょう。それでも、いわれた人にすればとってもつらく悲しいこと。だから、やっぱり言うてはいけないことなのです。

そして、この、幼稚園の子のお母さんの言った言葉、「おばさんがこわい顔をしてるから……。」この言葉が悲しい言葉ですね。こわい顔しているからやめるのではなく、言うてはいけないことなのです。この、お母さんの言葉で、足の不自由な子のお母さんはつらくて悲しい気持ちになってしまったのでしょね。

さて、何でこんなことを思い出してお話したかということ、最近校舎内で教室の前を歩いているとこんな声が聞こえてきます。

「うざい。」「きもい。」「ばか。」「お前なんかあっち行っちゃい。」こんな、とても悲しい、

とてもこわい言葉が平気で教室の中から聞こえてくるのです。そして、他の友達が注意すると、うるさい馬鹿関係ねえ・・・・・・・・。

そんな様子を見ていると、そんな言葉を聞いていると、何だか、とても悲しくなってしまう。

心の中の『思いやりのものさし』がこわれてしまって、相手の人の気持ちなんてわからなくなっているのでしょうか。

「やっていいこと、やってはいけないこと。」「けっして言ってはいけないこと。」そうです、いけないことはいけないのです。そのいけないことを平気で言ったりやったりしてしまう人がいる。それが悲しいのです。

きっと、こういう人たちは、相手の人を思いやったり、こんなこと言ったりしたらとっても傷ついてしまうだろうなと思ったりする『思いやりのものさし』がこわれているのかもしれない。だから、人が傷つくような、悲しくて立ち上がれないようなひどいことも平気で言ってしまうのかもしれない。

言った人は何気なくとも、そして、同じことを言っても、平気な顔をしていられる人もいれば、死にそうぐらい気づいて悲しい思いをする人もいるのです。

そして、そんなとき、この足の不自由な子のお母さんのこと、足の不自由な子を抱きしめていたときのこのお母さんの悲しい顔を思い出すのです。

皆さんの中には、こんなこという人、いないですよ。言ってはいけない言葉、ほかにもありそうですね。

桃五の民さんには、いつもいつも人の心を思いやる『思いやりのものさし』を心の中に持ち続けてほしいなあ、と思うのです。

人に迷惑をかけること。人にいやな思いをさせること。そして、そういうことをしてしまっても、気づきもしない人。そんな人にはなってほしくない。

皆さんには、ひとの気持ちを思いやり、友だちを大切にすてきな子たちでいてほしいのです・・・。

皆さんの『思いやりのものさし』、ちゃんと相手の人の気持ちがはかれますか・・・・・・・・。  
おはなし　　おわります・・・・・・・・。

